

グローバル化とアジアのスポーツ

日程：2010年1月30日（土）

場所：国士舘大学町田校舎 30号館3階

平井肇（滋賀大学国際センター長、教授）

私は滋賀大学教育学部でスポーツ社会学、スポーツ文化論を担当しています。今日は「スポーツの誕生、伝播、普及」、「アジアのスポーツ：その歴史と現状」、「グローバル化時代のスポーツ：その将来と課題」の3つのテーマに沿ってお話をしたいと思います。

近代スポーツは19世紀中ごろに誕生しました。英国型のスポーツは貴族の余暇時間の活動として始まり、「アマチュアイズム」という独自の価値観が生まれましたが、これは排除の思想であったため英国内では広く普及しませんでした。対照的に、米国型のスポーツは教育や市民の社交の場で生まれました。アメリカンフットボールは大学での遊びとして、野球は都市の住民の余暇活動として、バスケットボールは冬のスポーツとしてそれぞれ誕生し、普及しました。

こうして見るとイギリスは閉鎖的に思えますが、実は必ずしもそうではありません。イギリスが現代のスポーツにおいて果たした役割は、スポーツを生み出したという点だけではなく世界にスポーツを普及させたという点において重要です。一方、アメリカでは、19世紀の中ごろから20世紀の初めは国内が発展していく時代です。ですから、アメリカで生まれた野球やフットボール、バスケットボールは海外よりも国内で普及して行きます。また、アメリカは移民の国です。自分はアメリカ人だという気持ちを持つ意味で、母国のスポーツではなくアメリカ生まれのスポーツをする。アメリカ人としてのアイデンティティのシンボルとしてスポーツが普及していきます。

このように、スポーツは主にイギリスから世界中に広まっていきましたが、20世紀の後半からスポーツの普及の仕方やそれぞれの国での受け入れ方は非常に大きく変わってきます。これは今日のテーマであるグローバル化とも関係してきますが、一言で言えば地球的規模でスポーツがネットワーク化されるということです。今までスポーツはそこに根付いて行われていて、国や地域、大陸を越えて一緒にしたり、情報交換したりという機会は、当然のことですが、今ほどはありませんでした。

20世紀後半からスポーツのグローバル化が始まりますが、ではスポーツのグローバル化とは何で、どんな影響が起きているのでしょうか。大きな特徴は、非常に支配的であったイギリスのアマチュアリズムではなく、アメリカ的な価値観が世界標準になってきたことです。

アメリカ的価値観は合理的で、物質的なものを非常に大切にします。スポーツで評価された人がその対価としてお金を稼ぐことが可能になり、それがアメリカだけではなく世界中で徐々に受け入れられてきました。

19世紀後半から20世紀にかけては帝国主義の時代でした。宗主国のスポーツが非常に大きく影響していますし、後々にも影響していきます。例えば、イギリスの植民地ではイギリス人が普及させたスポーツが盛んに行われて今に続いています。

日本が台湾や朝鮮半島、満州を植民地化した時代は日本のスポーツが伝えられました。一番大きいものは野球で、戦前は甲子園にも台湾や朝鮮半島の学校が出場でき、活躍しました。

フィリピンはスペインの植民地でしたが、スペイン人はあまり文化やスポーツを根付かせることはしなかった。その代わりに、スペインの後に植民地化したアメリカの影響が色濃くあり、野球やバスケット、ボクシングなどが盛んに行われています。イギリスの植民地であったマレーシアやシンガポール、香港では競馬が盛んです。タイは、欧米の植民地になったことがありませんが、ヨーロッパに留学をしていた王族圏を中心とした上流階級の人たちが、スポーツを持ち帰り、普及が始まりました。

アジアのスポーツを見る上で重要なのは、英国人を中心とした社交クラブです。異国の地で暮らす外国人が息抜きや情報交換をする場としていろいろな所に出来、文化的な活動や食事だけでなく、母国のスポーツをすることで人が集まってきました。そこで行われたスポーツが、その国のスポーツの発展に大きい影響を及ぼしました。もう一つはYMCA (Young Mens Christian Association) の活動です。日本ではあまり注目されていませんが、アメリカのスポーツを普及させたという点ではYMCAは非常に大きい役割を持っています。

第二次世界大戦後はアジアの様子も変わってきます。この当時、アジアの国々は貧しかった。経済的にだけでなく、スポーツも世界と対等に戦えるレベルではなかった。ところが、経済発展を遂げると国の体制が安定し、国の力を示す、あるいは国民がまとまるための手段という形でスポーツに注目をしていく。その最大の例がオリンピック開催です。

日本や韓国、中国は、スポーツのレベルでも世界と戦えるところまで来ています。しかし、アジアのたくさんの国はまだそこまでいっていません。オリンピックやワールドカップで自国の代表が勝つのは現実的ではないけども、アジア大会やSEA Games (Southeast Asian Games) はその地域の1位を目指して争うことで非常に盛り上がります。

サッカーはプレイヤーの数、観客の数、テレビやマスコミで取り上げられるという意味でも、政治や経済にインパクトを与えるという意味でも、スポーツのチャンピオンです。グローバル化が一番進んでいるスポーツだともいえます。タイで放送されているサッカーの試合は、ほとんどイギリスのプレミアリーグです。アジアの大きい企業がそこでの広告価値に注目したため、イギリスのプレミアリーグではアジアのスポンサーが多く、ユニフォームに会

社の名前を入れることによって世界的な企業というイメージを植え付けようとする。

また、アルビレックス新潟というJリーグのチームはシンガポールにもチームを持っています。実は、これはアルビレックス新潟だけではなく、韓国や中国のチームもやっています。そういう点では、シンガポールは国籍などにこだわらない国といえます。

次は、台湾の野球ですが、日本でも台湾の選手が活躍しています。台湾ではプロチームが倒産したり、八百長などの事件があったりして、プロ野球を見る人が少なくなりました。選手は外国に目を向けて、日本やアメリカに行ってしまう。そこで台湾出身の選手が活躍すると、ファンの目もそちらに行ってしまう。台湾のプロ野球は今危機に立たされています。

ヤオ・ミン（姚明）は中国が生んだバスケットボールのスターで、アメリカのNBA、ヒューストンロケッツでプレーをしています。ヤオ・ミンは非常に大きい影響力を持っており、彼をコマーシャルに使うということは、その企業のイメージや商品を中国で売るという面でたいへんなプラスです。トヨタは中国での存在感を高めるためヒューストンのスタジアムの命名権を買い、「トヨタセンター」と名づけました。

北海道のニセコは、外国人が非常に多いことで有名です。特に、オーストラリアの人が多く、ニセコのあるロッジでは、宿泊者の半分にもなります。ニセコまでの交通は不便ですが、雪の質がすごくいいということで有名になりました。ニセコで配られるクーポン券などは日本語と英語で書いてあり、それだけ外国人の存在が大きいということを物語っています。オーストラリアは南半球ですから、日本とは季節が違い、以前はニュージーランドやカナダ、ヨーロッパなどにスキーに行っていました。ある時ニセコに来た若者から広まってだんだんとニセコに来るようになり、インフラも整備されました。ニセコは今やオーストラリアだけではなく、アジアの人にとっても非常に知名度が高い観光スポットになっています。

スポーツのグローバル化は、スポーツが普及するという点では非常にプラスです。世界のいろいろな情報が入ってくるので、選手の強化や、そのスポーツを取り巻く産業、経済にとってもプラスのことがあるでしょう。また、スポーツの交流にとどまらずにお互いをもっと知り合うという点でも、非常にいいことだと思います。

ところが、マイナス面として人材技術、国内レベルの低下があります。台湾の野球がいい例です。日本も良い選手はどんどん外国に出て行きます。ファンの目も海外に向いてしまう。そうすると、収入も減り、いい選手がますます外国に行く。さらには、スポーツに投資されたお金も外国に出て行ってしまいます。これは長い目で見たら決していいことではありません。

私たちは、こういうものは一つの流れであるという前提に立った上で、変わりつつあるスポーツに対し、スポーツをする人、スポーツを見る人、あるいは、スポーツの管理・運営に携わる人たちはどうしたらいいかを考えるべきではないかと思います。一番大事なのは、スポーツの本質を見失わないということです。スポーツをすること自体が目的ではなく、何かを達成するための手段になっていることは間違いありませんし、その傾向は非常に高まっていると思います。だけでも、スポーツは楽しい、健康にいい、みんなと友達になれるという

本質を忘れてしまっては、いつかスポーツは滅びます。スポーツの本質を見失わない、忘れないということは非常に大事だと思います。

スポーツを文化・社会現象としてとらえることも非常に重要です。今日お話ししたように、スポーツには歴史があって、その国、土地、文化と非常に大きい関係があります。それがスポーツの姿を変えているし、スポーツと付き合う上でも非常に大きい意味を持っている。そのスポーツのグローバル化、あるいは問題を意識することが非常に大事だと思います。

それから、スポーツをグローバル化の中で有効に生かしていくことが大事です。スポーツが盛んなところから情報が一方的に出てくるのではなく、自分たちも情報を出す、行動を起こすということが非常に大事になってきます。学校の部活や草の根レベルで外国の人と交わる機会をつくるのもいいでしょう。そうすると、その国のスポーツの事情も分かるし、お互いを知り合うこともできます。これこそスポーツがグローバル化したときの恩恵ではないでしょうか。

もう一つは、スポーツを通して学ぶことが大事です。スポーツとは何か、何でやるのか、本質的なこともあります。それ以外のところでもその国の文化を知ることができます。せっかくスポーツをする環境が広がって、いろんな人と付き合ったり、いろんな人とスポーツをしたり、いろんな国のスポーツを見たりするチャンスがある。そういう意味で、スポーツを通して学ぶことはたくさんあると思います。

この機会にスポーツについて何か感じるものが、あるいは、考えるきっかけになればいいかなと思います。どうもありがとうございました。